

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	・ひらがなを50音は、形や場所に気をつけて、丁寧に書けるように指導したが、いくつかの字の定着に課題が見られる児童がまだ見られる。指導方法をさらに工夫していく必要がある。 ・拗音や濁音の学習も行ったが、自分一人で書くことが難しい児童が1／3位いる。	・拗音や濁音、助詞の習得に向けて、朝学習や学習タイムなどを活用して繰り返し取り組めるようにする。観察カードや文を作る時にできていなければ個別に指導する。 ・宿題の音読などで、言葉や文に慣れさせる。	・PU講師と連携を取りながら、個別に支援をすすめる。 ・ペア学習やグループ学習を取り入れお互いに見合ったり、書き合ったりする学習を取り入れる。 ・本の読み聞かせや本を読む時間(図書)を週に1回入れて、本に親しませる。
2年	・国語科における書く力を身に付けるための指導が、苦手な児童に十分に行き届いていない。主体的に学習に取り組む態度を育むために、国語科の楽しさを味わわせ、身に付いた力を実生活で生かす力を高めていく必要がある。	・「今日の出来事」と題して、2～3行程度の1日の出来事を振り返る文章の作成に取り組む。(週2～3回) ・週1回、朝学習やなでしこタイムにて、短作文に取り組むことを習慣化する。その際、テーマと書くときの留意点を毎回示すことで、自分の思いが明確になる文章を書けるようにする。例を示し、書くことが苦手な児童も手本の文章を基にして、少しずつ書く力を高める。	・主体的に学習に取り組む態度を育むために、国語科の楽しさや達成感を味わわせる。そのために、音読する読み物の種類を増やし、文章の面白さに触れられるようにする。童話や絵本などの読み聞かせも継続して行い、読書に親しませる。 ・既習の漢字は繰り返し小テストを行い、年度末に学年正答率を80%にする。
3年	・学んだ漢字をしっかりと身に付けるための指導が十分に行き届いていない。また、文章を書く課題に対する苦手意識が児童に見られ、自分の意見や考えの伝え方をより丁寧に指導していく必要がある。	・定期的に漢字テストを行い定着を図るとともに、新出漢字の指導の際には、部首や漢字の意味、その漢字にまつわるエピソードなどを交えながら授業を行う。また、文章を書くときには、できるだけ学んだ漢字を使うように指導していく。 ・文章の書き方や、意見や考えの伝え方については、例を示すなど、取り組みやすくする工夫をする。	・授業との並行学習として、読書や音読に日々取り組ませる。さらに、音読詩集を使った取り組みを通し、表現の仕方や言葉のリズムのよさなどに気付けるようにする。
4年	・課題に対して、自己の考えや感想などを文章として表現する取組を設定できていない。 ・漢字については、定着を図るための指導が不十分で、とりわけ漢字を書く力が定着していない。	・単元の中で、読解、書く活動など、活動内容に軽重をつけ、文章を書く時間を十分に確保する。単元計画の立案、実施を確実にする。 ・視点を明確にする。 ・考えをもつ力を伸ばすために、きたコンを活用した情報の共有、意見交換などの機会を意図的に設定する。	・小テストの実施によるスモールステップの積み上げ、キーワードの提示などによる作文の補助などを計画する。 ・作文指導では視点に沿って書かれた児童の文章を紹介する、個に応じた評価・称賛などにより、個々の意欲を高め、力を伸ばせるよう計画する。
5年	・漢字の定着を図るための指導が、苦手な児童に十分に行き届いていない。 ・書く活動は日常的に実施しているが、今後さらに活動の中身をよくしていく必要がある。(月2回程度NIE活動、週1～3回自分自身の振り返りを書く活動)	・漢字小テストに向けて一度ではなく、何度も問題に取り組ませることで、漢字の定着を図る。 ・日常的に取り組んでいる書く活動で、事実と意見や具体と抽象を意識して表現できるように指導する。	・他教科の中でも、学習した漢字を積極的に活用するように指導する。 ・相手意識をもたせて書く活動を積み重ねることで、意欲と技能を高められるようにする。
6年	・自分の意見を論理的に組み立ててまとめた量の文章を書く経験や、国語科の「書くこと」の学習でしかもたせることができていない。学習したことを、その他の場面で生かすことができていないため、児童の中で定着しにくい。 ・既習の漢字を、文章の中で意識して活用しようという場面を設定できていない。	・まとめた量の文を書く活動を多様な場面で取り入れる。単元の終末や日記、意見文等、書くことで楽しみが広がるような課題を選ぶ。 ・既習の漢字を振り返って学習したり、意識して文章中で使うように指導したりする。	・NIE学習に継続的に取り組んでいるため、NIEとの関連をもたせる。興味のある記事を読んで、考えたことを文章でまとめたり、学級で一つの記事を選んで意見文を書いて交流するなどを行う。また、新聞を書く活動も行い、興味・関心を育てる。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立なでしこ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・スーパーマーケットなどの見学も難しい状況の中、具体物に接する学習に乏しい環境であることが挙げられる。現場、実物に触れる機会が少ないため、興味関心をもって取り組ませることが難しい。	・区から提供されている各種映像資料、図書資料や児童自らが集めてきた資料などを活用し、できる限り実感を伴う学習ができるようにする。	・国語の学習とのつながりをもたせ、調べ学習の後に、新聞にまとめ、発表する計画を立て、調べたことを友達に伝える活動をした。今後もまとめたことを知らせる活動などに取り組ませていく。
4年	・実物の見学、調査などについて活動量が少なくなる面があった。効果的に資料を提示したり、具体物に触れられる機会を増やし、実感とともに学習できる計画が必要である。 ・学習のまとめとして、調べたことをまとめ上げる活動が不十分で、学習事項の定着に結び付き難い。	・単元計画の充実を図る。学習問題作り、具体物の提示、動機付けなど、意欲を高める手立てを講じる。また、児童の意欲や問題意識を基に学習が進められるよう、導入において自分が知りたい、考えたいことを引き出すなどする。 ・単元に応じて、具体物、資料の提示を徹底する。	・適宜、きたコンのドリル問題などにより、知識の定着を図る時間を確保する。 ・まとめ方の提示など、モデルを示すことにより、学習のまとめをしやすくする。 ・学習内容を深める場合は、様々なまとめ方を提示し、取り組めるよう促すなどする。
5年	・社会は資料の読み取りが大切であるが、用いる資料の内容や提示の仕方を精査して、児童が考えをもちやすいように工夫する必要がある。 ・資料の情報量が多いこと、1つの情報が教科書と資料集に分かれていることなどの理由から、児童にとって資料が活用しにくいことが考えられる。	・どの児童にとっても資料の読み取りや比較等がしやすいように、内容に応じてタブレットの活用やプリントの用意などの教材研究を行う。 ・関連する複数の資料を用いて、その関係が意味することは何かを読み取ったり、比較したりし、それについて説明ができるように言語化の指導をする。	・社会が苦手な児童には、資料のどこに着目するべきかを自分で分かるように、問題文や指示の言葉に気を付けることを指導したり、コツを掲示したりする。 ・資料の読み取りが得意な児童には、読み取った内容を分かりやすく説明させる。
6年	・学習資料から疑問を見付けて学習課題を作り、課題に対する答えを資料から探している。 ・授業の中で交流活動を充実させて、資料をじっくりと読み取る活動を心掛けている。	・一人一人が主体的に課題に取り組む環境作りに向けて、タブレット型パソコンを活用し、共有した学習資料に各自が意見を書いて交流するなど、自分の考えをもって学習課題に取り組む工夫を行う。	・単元の終わりには、基本的な知識の定着を目指し、きたコンでドリル学習を課題にするなど、家庭学習の機会を合わせて、学習内容への理解を深める。 ・単元のまとめでは、自分の興味関心を生かし、学習した内容についてさらに調べて、既習の知識を関連付けたり、まとめたりする活動を行う。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立なでしこ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	- 生活経験の差も含めて、個人差が大きい、その差に対応するのが難しかった。 - 具体的な操作を取り入れ指導を行ったが、理解が苦手な児童にとっては、半具体物→抽象化という手順が時間的に不十分だった。	- 少人数指導のグループの組み方を工夫して、授業時間中に個別の指導を取り入れる時間を確保するようにする。 - 具体的な操作→半具体物→抽象化という手順を十分にとれるように単元計画を工夫し、丁寧に行う。必要に応じて、個別支援用の教材を準備する。	- 朝学習やなでしこタイムの時間に、児童の実態に応じた復習問題を行い、基礎的な力を身に付ける。また、復習問題を活用すれば解決できる発展的な内容も、随時取り入れていく。 - 問題解決、発表、検討という形の授業を取り入れていく。
2年	- 文章問題で、正答率が低くなっている。問題文をしっかりと捉えさせることが重要であった。 「かたち」については、特に色板を使ってできる形でつまづいている児童が多く、具体物を操作させる時間を多く確保していき、イメージができるように指導していく。	- 授業導入時に問題をしっかりと捉えさせる工夫をする。児童がイメージしやすいように例示し問題文をしっかりと理解できるようにする。練習問題を繰り返し取り組み、習熟を図る。 - 図形の学習では、具体物を操作させる時間を確保し、しっかりと理解できるようにする。授業では、時間配分に気を付け、繰り返し練習する時間を確保する。	朝学習やなでしこタイムの時間を活用して復習問題や応用問題を行い、考えるための基礎的な知識・技能を身に付ける。また、応用問題にも対応できる力を伸ばすため、既習事項の文章問題、活用問題の練習や解説を行う。
3年	- 算数が苦手な児童に対して、九九などの既習事項を確実に定着させる指導が十分とはいえない。 - 意欲的に学習に取り組み、基礎的な計算はできる児童が多いが、文章問題の立式などに課題が見られるため、活用する力を伸ばす指導が必要である。	- 授業の最初に、既習事項を確認したり、九九などの基礎的な学習を繰り返し行う時間を設ける。 - 問題場面を図に表したり、半具体物を操作したりして視覚化し、問題をイメージして立式できるようにする。 - 自力解決や交流の時間を継続して設け、課題解決学習の流れを定着させていくとともに交流による理解度の向上を目指す。	- 朝学習やなでしこタイム等の時間を使って、100マス計算や習熟プリントに取り組み、既習事項の定着を図る。 - 力の定着している児童には、様々な考え方で問題を解くように促す。また、それを分かりやすく伝えられるように促し、苦手な児童と相互に学び合う機会を増やしていく。
4年	- 計算の仕方や問題の解き方をじっくり考えさせる時間が少ない。 - 四則計算の技能が定着していない児童に対して個別の指導が不足している。 - 図形や表・グラフの学習では、視覚的に分かり易い資料を用いるなどして指導していくことが重要である。	- 授業の他に、家庭学習などで四則計算の技能を定着させるための機会を作り、定期的に確かめを行う。 - 問題場面を図に表したり、半具体物を操作したりして児童がイメージをしやすくする。 - 自分で考えたり、考えを表現したりする時間を十分に確保し、考えを深められるようにする。	- 朝学習やなでしこタイム等の時間を使って、100マス計算に取り組み、四則計算の技能の定着を図る。 - 力の定着している児童には、様々な考え方で問題を解くように促したり、それをわ分かりやすく伝えられる方法を考えさせるなど、発展的な活動に取り組みさせるようにする。
5年	- 児童が理解しているかどうかの確認が足りず、知識・技能の定着、活用にかかる時間が少なかった。 - 算数が苦手な児童が理解しないまま終わらないよう、習熟度別クラス編成の工夫、教員の個別指導の時間の確保や児童同士の教え合いを通して定着を目指すことがさらに必要である。	- 時間が経つと忘れる内容も多いため、導入時には前学年の同単元の振り返り問題も取り入れる。 - 実態調査や児童の振り返りなどから、授業の進め方を見直し、定着のための練習問題を解く時間を確保する。 - 児童の振り返りの際に、その時間に身に付けたことを友達や教員に伝えるようにする。	個人差のある実態を踏まえ、毎回単元の終末ではそれぞれの定着度に合わせた課題を示す。単元で求められている力に応じて、eライブラリ等のタブレット学習と紙面におけるワークプリントを使い分けていく。
6年	- 基本的な学習内容は解決できているが、少し複雑な内容になると十分に理解させ定着させることができていない。 - 読み取る力、考えたことを表現する力を身に付けるための時間が確保されているとは言えない。	- 少人数指導のメリットを生かし、基本的な学習内容を時間を充分にとって指導する。 - 自力解決の助けとなる既習の学習の振り返りを行ったり、ヒントを提示したりして問題を読み取らせたり、考えを表現させたりする時間を十分に確保する。	- 隙間の時間を活用して、各種プリントや算数ドリルに繰り返し取り組みさせ既習事項の定着を図る。 - 状況に応じて発展的な問題に取り組みさせる。 - 多様な考え方を発表させ基本的な内容から幅を広げて考えられる場をつくる。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立なでしこ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・植物の成長にそって進める学習の単元では、天候や成長状況が予定通り進まず、学習が思うように進めることができないことが挙げられる。（花の咲く時期が夏休み中になってしまうなど）	・映像資料を用意しておくなど、できるだけ実物に近づけるような工夫をする。 ・柔軟な予定を計画し、別単元と平行した学習等に取り組めるようにする。	・実験では、問題づくり、予想、実験、観察、結果、考察など、学習の一連の流れを定着させ、今後の学習に活かせるようにしていく。
4年	・実験における予想や確かめ、振り返りなどの時間が不十分な場合があり、実感を伴って知識を定着させる活動ができていない。 ・電気の通り道を除いて、理科の基礎基本の知識がどの領域においても定着していない。理科に対する苦手意識がある児童も多くいる。	・実験の前後に予想や結果について考える時間を十分に確保した上で実験に取り組ませる、既習事項と関連付けて考えさせるなどし、じっくり考えさせながら学習内容の定着を図る。 ・既習の学習と関連付けやすいように、学習内容を適宜掲示したり、資料として提示したりする。	・単元の始まりには、関連する既習事項の内容を確認し、学習を系統的に捉えられるようにする。 ・学習したことを応用した作品を作る、学習した方法以外にできる実験方法を考える活動を取り入れるなどし、学習を深められるようにする。
5年	・家庭学習において知識の定着を図る課題が少なかった。 ・予想や考察に自分の考えを書くことに対して苦手意識をもっている児童が見られる。 ・目の前の現象についての問題解決が実感をもてないまま終わり、知識として定着できない児童が見られる。	・視点となる言葉をキーワード化し、その言葉を使って予想や考察を書かせるようにする。文型についても例示する。 ・観察・実験の結果を共有する時間を十分に取し、比較し関連付けて考える経験を積ませる。	・理科支援員と連携をして、実験のより一層の充実させ、問題解決の実感をもたせるようにする。 ・単元の導入や終末では、児童の身の回りの出来事や、時事のニュースと関連付けて問題について考えさせ、学びを日常生活に結び付けるようにする。
6年	・実物に触れさせ、身近な事象について考えさせることで、観察・実験に意欲的に取り組む児童が増えた。 - 一方で「分かったつもり」で思考が流れてしまい、知識・技能の定着に結び付いていない場面が見られた。 ・振り返りの時間があまり取れなかった。	・科学的な物の見方に気付くことができるように、観察視点や科学用語をキーワード化し掲示する。 ・朝の学習を効果的に活用し、復習プリントやきたコンのドリル問題に取り組ませる。 ・問題の結論が出た後、振り返りや活用する時間を取るようになる。	・学習に関連した科学読み物の図書コーナーを毎回設置する。 ・理科支援員と連携し、顕微鏡などの実験器具を操作する技能テストを定期的に行う。 ・NIEの活動で、新聞やニュースの内容を取り上げ、既習の学びとつなげていく。